

まちの縁側

エンハコビル（縁箱ビル）

エンハコ(縁箱)ビルは、住宅エリアと商業・官公庁エリアの境界に位置し、人々が行き交う動線上に「一休みできる縁側」のような役割を担う地域拠点として計画された。大規模な人流はないものの、平日は、高齢者、主婦、子供たちがスーパーやカフェ、学習塾などへさまざまな目的でこの上記2エリアの境界を往来する。休日は、ファミリーが市役所駐車場で行われる「朝市」に出かけ、大きな公園で過ごし、カフェやファミレスで食事をしながら、住居エリアに戻っていく。確実に地域住民の移動が発生していることに着目し、道なりに縁側(立体縁側のバルコニー)を設け、木質感かつ有機的な形をした軒下をつくることで、住人が近づきたい、建物側も手を差し伸べているかのようにし、最終的にそれがこのビルのデザインを担っている。

